

アンケート結果（感想）

番号	感想
1	ご夫妻の笑い声や笑顔が印象的でした。映画の中の先生の講演にもあったように、認知症ご本人の気持ちを理解する事はわかっている、最も必要で最も難しいといつも感じます。認知症の方のご家族にはぜひ見ていただきたい映画だと感じました。認知症を発病されて、すぐのご家族の心の辛さのようなものを考えると、どれほど苦しかったかきつと言葉では表せないですね。とても勉強になりました。ありがとうございました。
2	意義深いドキュメンタリー映画であると思いました。「3倍速の世界を見ている」という表現が印象的でした。
3	大変参考になった。妻との向き合い方に考えさせられた。患者の心の中を見抜いて、妻の立場になって、妻の意見を知るとの事か！
4	家族のありがたさを感じた。
5	仕事でレビーの方の介護に関わったことがあり、その方はレビー症状が強く、いわゆるアルツハイマー型の認知は少なかったが、日によってかなり症状の出方が変化し、心の中はどんな感じだったのかと思った。途中からご主人の認知症の方がひどくなり、施設に入ってしまった。この方は家族（子供さん）との関係がうまくいってなく気の毒だった。介護は家族が大変だとつくづく感じる。石本ドクターも「うつ」と戦いながら「今は幸せです。先の事はわからないが」という言葉が印象的だった。
6	わからないことが少しわかった。
7	身につまされる内容でした。
8	もっと認知症についての理解が社会に広まると良い。
9	夫婦ともに後期高齢者です。これから先認知症になるかもわかりませんので、とても参考になり、身につまされた良い映画でした。
10	難聴なので字幕があると良いと思いました。聞き取れないところがいっぱいあって残念。
11	介護はいろいろな人の助けを積極的に借りて行うのが良いと改めて思った。
12	家族とのコミュニケーションが大切だと思った。（健康な時に）
13	なおちゃんシリーズなど、伊勢作品を何作か拝見しています。今作が1番心にストンと落ちました。良い作品をありがとうございました。
14	笑い声が出るまでの長い道のりを思うと、胸が詰まる。自分にはとても自信がない。
15	ご苦勞を応援し、自分も何かできることから理解を始めたい。
16	感動ものでした。ただ言葉は不明な点が多くありました。できれば自宅のテレビで見たいです。（一言一句がしっかりわかるように）
17	いい映画でしたね。病気の事だけでなく、全体に夫婦の愛情も感じられてとても切なくなりました。見せてもらって良かったです。病人の看病する側の人の大変さも伝わります。うつ病の大変さもよくわかっているので、よく最悪の状態を避けられて良かったですね。

アンケート結果（感想）

番号	感想
18	奥さん(弥生さん)のレベルがよくわかりました。 すごく参考になりましたので、本日の映画を参考にさせていただきます。
19	認知症の人に対する接し方の難しさを石本氏の対応を見て思いました。
20	母親が認知症でグループホームに入居しているので、大変参考になりました。
21	奥様の優しい様子がよかった。波の映像に救われた。
22	このお二人の心は、天使、菩薩に近く、そのようなご存在の方に起きた出来事のドキュメントだと思いました。立派な人にも人生、課題は来るものですね。これほどまで妻を支えることができるのは、生前より奥さんのことを本当に愛していたからですね。今の私にできるかは分かりません。でもいろいろとても参考になりました。友人でもないのに、こんなに人の人生を知れるドキュメントと言うものは価値があると思います。
23	いろいろな病があり、夫婦の絆が強くなく、いつ自分もなるかと不安になりました。
24	終わりはない。終わりは片方の死。タンゴのようにリズムで動く。
25	初めてこのような実生活をドキュメント映画として見せていただいて、知り得ないことばかりで、石本先生の優しさがわかりとてもありがたかったです。私が先か夫が先かこのようになったときに少しでもこの映画の石本先生のことを真似てできるといいけど…。本日はありがとうございました。
26	実話なので考えさせられました。
27	認知症の実態が見えてきた。現実の問題。この問題を乗り越えるためには総合理解すること、感情を大切にすること以心伝心
28	企画運営お疲れ様でした。毎日のんびり暮らしているので、いろいろ考えさせられて、脳が活性化しました。ありがとうございました。
29	介護される側も敦側も日々大変なご苦労もあるかと思いますが、声を出して笑って毎日を「生きなきゃ」と2人で頑張っていらっしゃる姿に元気をいただきました。どうぞこれからもお二人お幸せに！
30	事前に誘われてきました。とても良かったです。
31	最後の意見交換では、本映画にまつわる貴重な説明や意見が聞けてよかった。
32	始まったばかりの本人の不安。始まったばかりの介護に向けて、心していきたいと思った。本日はありがとうございました。
33	私の妻(77歳)は今日出演された弥生さんのレベルの10分の1程度ですので、すごく参考になりました。
34	「何があるかわからない。だから生きる」心に残りました。お医者様ですが、苦悩は計り知れない。素人の私たちはどうなるやら……頭の中、脳みそはどうなっているのやら。まだまだ未知のことばかり、謙虚に生きることしかないように感じました。夫婦の絆、素晴らしかったです。
35	自分の身に置き換えていろいろ考えてしまいました。

アンケート結果（感想）

番号	感想
36	認知症介護の難しさがわかった。ご夫婦の愛がすごかった。
37	認知症の方のドキュメンタリーとしてとてもわかりやすく描かれていた。症状なども参考になりました。「有名のほitori」も見てみたいです。介護には家族以外に専門職、地域の力が不可欠と思います。
38	自身も夫に頼って生きている。認知症に近いので身に染みた。この映画で夫の気持ちがわかる。夫を大事にしたい。
39	地域のためにありがとうございました。素晴らしい活動だと思います。
40	とてもリアルな映画でした。ありがとうございました。これからどう生きるか。パートナーを大切にすること(感情)
41	家族がいつ認知症になるかわからない。日ごろのコミュニケーションが大切だと思った。
42	リアルドキュメンタリーでとても心に染みる内容でした。介護関係を最近勉強しだして他人事ではないことと理解すべき年齢になりつつある自身のために励もうと思いました。アルツハイマー、レビー小体型認知症を支える家族や自分のためにどう進むか、とても響きました。支える側も疲れて鬱的になる。どうレスパイトするか、高齢化が進むため、介護職の知識が必要だと思います。
43	レビー小体型認知症について認識が全く違っていました。あんなにも何もかも日常生活ができないなんて思ってもいませんでした。改めて学ぼうと思いました。これからもお二人が寄り添って生活できますようにと祈るばかりです。
44	たくさんの困難に向き合いながら、笑顔を忘れずに日々を過ごすことにとても大切さを感じました。もし自分が向き合えることができるかと思います。ありがとうございました。

アンケート結果（感想）

番号	感想
45	私の父もレビー小体型認知症と診断されていました。「幻視」の症状が強く、「ズボンに小さな虫がいる」「あっちの庭に若者も夜たむろしている。「警察にTel.するか(怒り)」とかが多かったです。しかし、普段の生活では母(82歳) 2023年3月21日他界した母の介護（サポート）を約5年していました。Nsばりのアップレなサポートを母が他界するまで対応してくれました。私は別に暮らしていましたが、確かに家族も共倒倒れになる…とてもわかります。今日の「妻の病」ではできなくなってしまったことも多い映像でしたが、"小学校での校歌"を歌う姿、手紙とても印象的でした。監督のトークセッションがあって、とても良かったです。ありがとうございました。
46	伊勢先生の優しい心情が全編に流れ、弥生さんの表情が良かった。
47	勉強になりました。
48	介護の大変さを感じ、本人、周りの家族の心労がわかる映像でした。自分がここまで介護することになった場合のことを考えさせられる思いです。
49	家族の認知低下傾向の対処に前向きになったと思います。
50	自分の立場になって考えたときそのようには対応できないと思った。しかしそのように対応しなきゃいけないと設実に感じました。がんばります。
51	レビー小体型認知症の患者の家族としての石本医師の対応に感心した。
52	母がパーキンソン病で介護した経験があるので、思い当たるところが所々にあり、感慨深かったです。ドキュメンタリー15年間ご苦労様でした。席が後ろの方で隅々まで画面が見えませんでした。が、何年後など入れていただけたらわかりやすかったです。
53	とても良かった。個人情報なのですが、石本ご夫妻の年齢、お子さんはいらっしゃるのか気になりました、